

■大谷光瑞 真宗本願寺22世宗主。中央アジアで発掘調査を実施し、負債と疑獄で隠退後は、大アジア主義の先導役。

おおたにこうずい
三つの反乱・1876＝

京都で、_21世光尊の長男に生まれる。

明治14年政変1881＝5歳：

新体詩抄・・・1882＝6歳：それまで育ててくれた乳母が突然姿を消して衝撃を受ける一方、書や素読を開始、
岩倉具視没・1883＝7歳：山科別院の学問所に入り、

内閣発足・・・1885＝9歳：得度、

帝国大学始・1886＝10歳：上京し、学習院に入学したが、

帝国憲法発布1889＝13歳：

帝国議会始・1890＝14歳：退学して共立学校に移るも、

足尾鉍毒始・1891＝15歳：再び中退し、京都に戻る。学問所は大谷廟堂に移され、そこで仏教学者らに学びながら、
本願寺の予算が京都市のそれに匹敵するという最盛期の中、
_多岐にわたる学問をほとんど独力で身につけ、

日清戦争始・1894＝18歳：多数の将兵らの帰敬式を行なうなど活発な行動を開始する一方、

日清戦争終・1895＝19歳：仏典の原典を入手するのが仏教者の義務であると、西域の仏遺探検の準備を始める。

白馬会・・・1896＝20歳：腹心を先行して派遣し、

子規句歌革新1898＝22歳：九条箒子と結婚後、学者らを集め、

Bushidou・・・1899＝23歳：_日清戦争後の清国における仏教の状況を視察するため、上海・香港・上海などを旅行。

ピアノ国産化・1900＝24歳：{宗祖650回大遠忌御得受}の消息を発する。_北京で西太后らと会見して、帰国。
ヨーロッパ諸国を歴遊後、北極遊覧やトルコなどに出向き、

教科書疑獄・1902＝26歳：*ロンドンから、中央アジア仏遺探検に出発、ロシアのペテルブルグで村田少将らのアドバイスを受けて、
入念に体制を整えた後、カシユガルまで達したが、父の病状が悪化の知らせに、
調査隊を残してインドに向かい、父が死去したため、帰国して22世宗主になる。

日比谷公園・1903＝27歳：<日露戦争始>に伴い従軍布教師を派遣。教団の近代化に努める一方、神戸の六甲山上に別荘用地を取得。

日露戦争始・1904＝28歳：

日露戦争終・1905＝29歳：

満鉄発足・・・1906＝30歳：北海道・樺太を巡教後、_2度目の清国視察の旅に出、武漢などを回り、

韓国反日暴動1907＝31歳：{宗祖650回大遠忌御得受}の消息を発する。_北京で西太后らと会見して、帰国。

アヲチ創刊・1908＝32歳：_神戸六甲山上に二楽荘を建てて探検収集品の整理。ノイローゼに悩まされたり、有名なスウェーデンの探

検家ヘディンの訪問を受け、

伊藤博文暗殺1909＝33歳：妻とインド・ロンドンへ旅行する一方、_橘瑞超ら第二次西域調査隊を派遣、

韓国併合・・・1910＝34歳：妻・箒子が死去するという不幸の中、盛大に{宗祖650回大遠忌御得受}を挙行したが、

大逆事件判決1911＝35歳：園芸試験場・測候所・印刷所などを併設した{二楽荘}に隣接して、仏教中学校{武庫中学}を開設、

明治天皇没・1912＝36歳：_{二楽荘}を無料公開すると観光客多数が訪れる。敵偵察という国家的任務も背負いながら、調査隊を派
遣して中央アジア探検を続行、3回目の発掘調査を実施した。自らは蒐集物に基いて研究著述を続けたが、
探検や別荘建設の膨大な出費で本願寺財政が大赤字になるとともに、教団内部から批判の声が高まり、
*突然起こった疑獄事件のために隠退した。東久邇宮殿下の来臨という光栄に浴するも、{二楽荘}を明け渡

第一次大戦始1914＝38歳：*突然起こった疑獄事件のために隠退した。東久邇宮殿下の来臨という光栄に浴するも、{二楽荘}を明け渡

ロシア革命・1917＝41歳：南洋に巡航し、_ジャワ島に{蘭領印度農林工業}を設立。

本格政党内閣1918＝42歳：一旦帰国し、別府で静養後、香港・広州に赴き、_孫文政府の最高顧問となる一方、セレベス島のコーヒー
園をイギリス人から購入。

ベル仁条約・1919＝43歳：青島からセレベス島を巡る。

大暴落・・・1920＝44歳：上海からセレベス島に向かい、_ジャワ島で香料用の農園を購入、養蚕も合わせて経営開始。

原敬首相暗殺1921＝45歳：帰国。再び中国に出、そこから渡欧、ヨーロッパ諸国の社会・宗教事情を視察、上海に戻る。

水平社結成・1922＝46歳：上海よりジャワ・セレベスを巡航し、大連・北京に赴く。

関東大震災・1923＝47歳：以後3年間に、上海4往復、大連に3往復、ジャワ・セレベスに3往復、

円本時代始・1926＝50歳：神戸を出航し、サイゴンからスエズ運河を経て、コンスタンチノーブルで農学校・養蚕学校を視察、

金融恐慌・・・1927＝51歳：ヨーロッパ各国で機械工場を見学後、帰路再び立ち寄って農園経営などを折衝して、帰国。

共産党事件・1928＝52歳：香港、上海を往復した後、渡欧、各地を遊覧して帰国。

海軍軍縮条約1930＝54歳：ジャワ島の農園を巡視、一旦帰国後、台湾の農事試験場を視察、

満州事変・・・1931＝55歳：ジャワ島の農園を巡視、

五一五事件・1932＝56歳：ジャワ島の農園を巡視。_満州国が建国されると、すぐに視察に訪れ、

国際連盟脱退1933＝57歳：香港・ジャワ・台湾に赴き、大連に滞在。_「満州国の将来」を刊行。

芥川直木賞始1935＝59歳：台湾を2度視察し、*「台湾島の現在」を刊行。以後、5年間に、台湾へ10回、南洋諸島へ2回、上海へ6回、大
連へ2回、北海道・樺太へ2回、華北へ1回、ジャワへ1回往來するなど、日本周辺地域を幅広く踏査、

日中戦争始・1937＝61歳：

健保+総動員1938＝62歳：翌年にかけて、_「大谷光瑞興亜計画」を執筆し、

第二次大戦始1939＝63歳：翌年にかけて、_全10巻を刊行する。

大政翼賛会・1940＝64歳：_「蘭領東印度地誌」を刊行。内閣参議となり、

日米開戦・・・1941＝65歳：

・・・1942＝66歳：「大谷光瑞興亜計画」の一部6～9巻が「熱帯農業」として刊行される。_大部の「印度地誌」を刊行。新設された
大東亜建設審議会委員となり、

創価学会検挙1943＝67歳：_中国杭州で、欧亚連絡鉄道敷設計画を再考して、「支那鉄道建設計画」を刊行。

年金+総武装1944＝68歳：_中国に留まり、「中支地誌」を刊行して、帰国。小磯内閣顧問となり、

敗戦・・・1945＝69歳：_敗戦は大連の病院で迎え、そのまま抑留される。

新憲法施行・1947＝71歳：_ようやく帰国、各地の病院で治療を受けながら、九州を巡回し、知事らに産業復興の助言をするが、

極東裁判判決・1948＝72歳：*戦中の著書の内容が問題視され、公職追放となった直後に、別府で没した。

「大谷光瑞全集」13巻がある。

津本陽「大谷光瑞の生涯」、
「日本地理学人物事典(近代編1)」、
「日本史を変えた人物200人」、
「没年日本史人物事典」、
平凡社百科事典、
「目でみる日本人物百科」、